



2014～15 年度
国際ロータリー会長

ゲイリー C. K. ホアン

Weekly Report Niigata



2014～15 年度
新潟ロータリークラブ会長

高橋 秀樹



2014～15 年度 国際ロータリーのテーマ

新潟 RC 8 月第 1 例会 (2014.8.5) No.3051

(1) 「君が代」 斉唱

ロータリーソング「奉仕の理想」 斉唱

(2) 高橋 秀樹会長挨拶

ロータリーの六つの重点分野の一つ「経済と地域社会の発展」について、新潟の織物産業を取り上げてお話ししたいと思います。

新潟は和服生地の名産地です。素材の点でも小千谷の名産小千谷縮をはじめとする麻の織物、絹の織物、綿の織物と各種揃っております。もっとも、全国どこの地域でも、多かれ少なかれ昔は機織りが行われていて、地元の織物という珍しいのものではないだろうと感ずる方もいらっしゃるかもしれません。しかし、新潟の場合ちょっと事情が異なります。参考に男性用の和服の入門書を繙いてみましょう。銀座に店を出している方が出版した『銀座もどきの男のきもの』(株式会社世界文化社,2005)という本があり、第3章で全国の様々有名生地が紹介されています。綿薩摩、片貝木綿、伊勢木綿、米沢御召、米沢紬、西陣御召、江戸小紋、十日町紬、結城紬、大島紬、越後上布、小千谷縮、能登上布。紹介されている13点のうちなんと4点が新潟県産の織物なのです。つまり、新潟は全国に誇るべき和服生地の名産地なのであります。それどころか、名産地としての歴史は、米や酒などより織物のほうが遥かに古いのです。

天平3年(731年)には既に越後国から朝廷に麻織物が献上されており、正倉院に収められています。以後も、平安、鎌倉、南北朝、室町、江戸の各時代を通じて極めて高い評価を受け続け、最高級の布は「東の越後、西の宮古」に極まるとされてきました。江戸時代には、越後上布は武士の礼服である袴に用いられ、あまりの人氣に贅沢禁止令が出されるほどだったようです。現代でもわかっている人はよくわかっているようで、ある呉服屋さんから聞いたのですが、ときどき東京や京都から新潟にやってくるぶらりと店に入ってきたお客さんが、小千谷縮や十日町紬の品揃えと安さにびっくりして、反物をたくさん衝動買いしていくのだそうです。

しかし、新潟県の各種の広報活動の中で、こういったことを謳っているものはそれほど多く見かけません。理由は簡単です。今の日本人はあまり和服を着ないからです。新潟県人も例外ではなく、そうこうしているうちに、貴重な伝統産業は少しずつ

消えていきます。

一つ例を挙げましょう。他県出身のみなさん、村上市に山辺里(さべり)というところがあり、昔はここで「平」が織られていました。「平」とは袴用の特殊な生地です。袴の生地は、かつては「仙台平」と並んで「山辺里平」が名品とされ、全国で人気を二分していました。しかし、ずいぶん前に「山辺里平」は絶えたとのことです。幸いにも私は数年前にこの生地を手に入れ、袴を仕立てることができました。ある大店が店をたたんだ時に人手に渡した在庫品だったようで、これを私に売った方は、生地が入っていた桐箱を絶対に捨てないようにと何度も何度も言っていました。

さて、地域の活性化、産業振興というとき、すぐさま効果を見込めるもの、時代に乗って大量販売が見込めるものに目が向きがちです。しかし、すぐに導入できるもの、効果がよく見えるものは、どの地域でもすぐに導入します。どこにでもあるものならば、短期、中期のうちにその効果は失われますから、すぐさま次の最先端を必死になって取り込まなければいけなくなります。きりがありません。それに対して、伝統産業というものは、すぐに導入できるものではなく、他では簡単には真似できないので、長期的に地域を支えます。しかし、多くの場合大変な労力に支えられているものであり、振興策も短期的に目覚ましい効果を上げることはありません。結局、地域住民一人一人の生活がかかっている産業振興策としては、導入が容易で即効性のある施策も、伝統産業振興策も必要で、その両輪があって初めて地域は安定していくのだと思います。先端産業や現代ならではの産業だけを追いかけると、その行きつく先は全国どこでも似たような姿の国のありかたです。選択肢と可能性が貧困な国になってしまったら、グローバル化した世界の中で生き残っていくことなどできるのでしょうか。

グローバル化というと、世界基準に対応することに目が向きがちです。しかし、かつて白洲正子は、<真の国際化とは、英語をペラペラ話することができるようになることではなく、世界に対して日本のことをきちんと説明できるようになることなのだ>という趣旨のことを言いました。和服をきちんと着ていれば、それだけで日本的な何かを一つ示したことになります。我がクラブにもその恰好の例があります。2004年4月14～18日、香港島東RCの50周年式典の際、鈴木滋弥さんは紋付袴姿で出席して会長挨拶をなさり、喝采を浴びたとのことです。また、ロータリー財団の奨学生の中には留学先に浴衣を持っていく方も多

く、現地で注目されるようです。そして、本クラブの推薦でアメリカに留学している麴澤さんからの報告書にもあるように、和服を着てお茶をたしなむ海外の方もいらっしやいます。また、先週末東京に出張した折には、ちょうど隅田川の花火の夜でしたため、得意げに浴衣を着て堂々とJRに乗り込んでくる白人、黒人の外国人の姿も目につきました。このような状況の中、新潟が「山辺里平」を失ってしまったことは、実に残念です。

しかし、一方に消えゆくものあれば、他方に復活するものもごぞいます。かつて亀田は「芦沼」と呼ばれる広大な泥湿地で、腰まで水に浸かって農作業を行う苛酷な土地でした。このような土地柄から水と泥に強い布地が必要とされ、また、当時は綿栽培の最北の地だったこともあり、「亀田縞」という強靱な独自の綿布が生まれました。その最盛期は明治末期から大正にかけてであり、亀田甚句に「織姫たちが集まれば若い男衆の血も騒ぐ」と歌われたほどでした。しかし、昭和13年から戦時指定生産が始まり、戦後は洋装化、機械化に押されていき、昭和60年(1985年)のプラザ合意によって外国からの安い生地的大量輸入が始まったことが決定打となって、ほぼ消滅するに至ります。ところが、2002年から地元の二つの企業により復元の努力が始まります。そして2005年には商品として復活するに至るのです。私は亀田縞で着物と羽織を仕立ててみましたが、何度も着て洗濯を繰り返しているうちに、ふっくらと柔らかくなり、それでいて丈夫さは損なわれず、日常着として寛ぐ時の衣料として、実に使い勝手が良うございます。そして、企業の戦略としてなるほどと思うのは、第一に、和服生地としてはお手頃価格だという点、第二に、現代のニーズにあう様々な商品開発が行われている点、そして第三に、千趣会、ベルメゾンといった全国的な通販組織に乗り、女優の山口智子のプロデュースブランドと提携したりして、新しい販路の開発と展開に意を用い、短期間のうちに全国レベルの商品に押し上げて行った点、などであります。

今日の話題は織物産業にかぎったことではございません。先人が長い時間と膨大な手間をかけて遺してくれたものを、引き継ぎ、愛でて、自らも使うことによって生命を吹き込み、その時代にあった工夫を施しながら、次へと手渡していく。このことが、他では簡単に真似することのできないような可能性と選択肢を地域社会に与え、最終的には国全体の将来を豊かにしていくのではないのでしょうか。

いささか話が大きくなったようで恐縮です。本日私が言いたかったことは、ささやかなことに過ぎません。我々は、和服生地の名産地という伝統がある新潟に住み暮らしています。これを幸いとして喜び、できるだけ機会を見つけて和服に袖を通し、日々の生活を楽しまたいものです。あまり無理のない、ささやかな暮らしの一コマが、新潟の街を一層風情のあるものとし、地域産業の支援にもつながるのではないのでしょうか。

(3) ビジターの紹介

佐々木昌敏ガバナー (小千谷 RC)

吉田武彦クラブ奉仕委員長(小千谷 RC)

藤田 普ガバナー補佐(新潟南 RC)

(4) 米山奨学生 朴 治国さん挨拶・奨学金贈呈



(5) 100%出席バッチの贈呈

本間 剛三君	1年	山田 眞君	1年
渡辺 洋一君	3年	小田 等君	4年
内山 清君	24年	小林 悟君	36年
福地 利明君	39年		

(6) 誕生日お祝い贈呈(5名)

(7) 結婚記念日お祝いの紹介(1名)

(8) 新年度新会員紹介者へガバナーよりバッチ贈呈

(9) 各種ご寄付の発表

ロータリー財団寄付発表(樋熊 紀雄委員長)

得永 哲史君 鈴木 滋弥君
樋熊 紀雄君

米山奨学会寄付発表(宇尾野 隆委員)

得永 哲史君 宇尾野 隆君

青少年育成基金寄付発表(小林 敬直副委員長)

得永 哲史君 本間 彊君

(10) ニコニコボックス紹介

・佐々木ガバナー 地区第一の伝統クラブ新潟クラブへお伺いできました。喜んでおります。

・高橋 秀樹会長、安藤 栄寿幹事 佐々木ガバナー様、吉田クラブ奉仕委員長様、藤田ガバナー補佐様を歓迎してニコニコ致します。

・鈴木 滋弥君 2013年リスボンでのロータリー世界年次大会でご一緒の佐々木さんをお迎えして。今日はようこそ新潟クラブへお越し下さり、有難うございます。

・得永 哲史君 お見舞い、ありがとうございました。

・坂本 務君 7月30日に阿賀野市で開催した今年の夏季巡回ラジオ体操・みんなの体操会」。2日前に梅雨

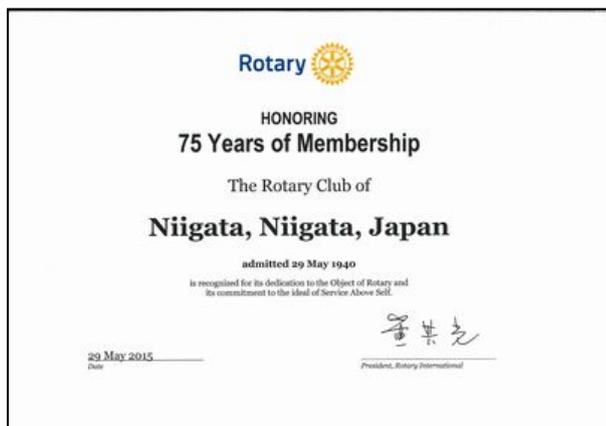
明けして天候にも恵まれました。参加者も約 1300 人と大盛況で“新潟の元気”を全国に世界に生放送で届ける事ができました。

・登坂 直美君 7月30日の技能競技会(電話工事)で当社社員(女性)が故障修理部門で1位になり、ニコニコです。

・川崎 嘉朗君 名札を新しくしました。端数のおつりを入れました。

・塚田 正幸君①今日は佐々木ガバナーの公式訪問ですが、私の親友藤田普さんがガバナー補佐として一緒に来訪されたこと歓迎します。②家内が12年半乗り続けたミニバンが壊れ、高額な修理費が掛かるので廃車にして、息子の中古車に乗ってました。ところが先日家内が自分で車を買いますと言い、どこにそんな金があったのか腑に落ちません。しかしながら、元来車好きな私が口出しして三日間で車種選定、試乗、購入決定し、7月末日に納車されました。想定外の新车購入でしたが、家内より私の方がニコニコしてます。

(11) ガバナーより RI 発行新潟 RC75 周年の証書伝達



(12) 佐々木昌敏ガバナー講話



(13) 幹事報告(安藤 栄寿幹事)

- ・ガバナーを囲み写真撮影を行いますので、5階写場へ移動願います。
- ・撮影後、クラブ協議会参加の方は3階 サンマルコへお願い致します。
- ・来週12日は、規定休会となり、例会を開催致しません。クラブ事務局は13日~17日までお休みさせていただきます。

(14) 本日の出席率 70.79 %

(2週間前メーク後 83.73 %)

8月19日の例会予定

卓話「良寛の書を味わう」

良寛研究所 所長 加藤僖一 氏

新潟ロータリークラブ会員専用ホームページアドレス
<http://www.niigatarc.jp/>